

各種記入用紙収載CD/ポケット版「AE対策」付

すぐ使える
が使える

医師・看護師・薬剤師・CRCのための

分子標的薬 トータルマネージメント

YURCCパッケージ ver.1.2

編集 富田 善彦 山形大学医学部教授

すぐ使える

医師・看護師・薬剤師・CRCのための

分子標的薬トータルマネージメント YURCCパッケージ ver.1.2

編集 富田 善彦

RichHill Medical

分子標的薬による皮膚障害対策

TKIの皮膚症状としては薬疹と手足症候群(HFS)がある。

薬疹

①の薬疹と同様の対応になる。
②フェニブの場合、投与当初にみられる軽度の紅斑は自然に消退することも多い。

手足症候群(hand-foot syndrome: HFS)

①に関しては患者自身の自己管理で多くの場合対処可能であり、「分子標的薬のスキンケアについて」(p.41 参照)のごとく自己管理を指導する。

スニチニブ
ソラフェニブ
エベロリムス
テムシロリムス

掲載薬剤



各種ツールに対象職種マーク掲載



医師向けページのマーク



看護師向けページのマーク



薬剤師向けページのマーク

分子標的薬を服薬中のスキンケアについて

このお薬を服薬している間、「手足症候群」という皮膚症状が現れることがあります。お薬を飲み続けることができるように、適切な時期に適切な対処・治療を行い、上手にコントロールすることが大切です。

- 原因**
現在のところ、なぜこのような症状が起こるのかはわかっていません。また、必ずこのような症状が現れるとは限りません。
- 症状**
皮膚の体質や内服されているお薬の種類によって、症状の現れ方や程度は異なります。「発赤」⇒「かゆみ、痛み」⇒「水疱、表皮剥離」⇒「角質化」の経過をたどる傾向が認められていますが、症状の程度や変化には個人差があります。
- 基本的な注意事項**
皮膚に対する圧迫・熱・摩擦による刺激が原因といわれています。

分子標的薬の治療を受けている患者さんへ

お名前 _____ 年 _____

診察前に、血圧・体温を測って下さい

血圧：(_____ / _____) mmHg

体温：(_____) °C 体重：(_____) kg

前回外来受診後からの体調はいかがでしたか
あてはまる症状があれば、○で囲んで下さい
その他に気になる症状があった場合は()に記入して下さい

熱が出た _____ 味が変わった _____ 胸が苦しい _____

分子標的薬による高血圧対策

治療開始基準

高血圧を合併している場合
収縮期血圧 140 mmHg 以上、
拡張期血圧 90 mmHg 以上となった場合
高血圧の合併がない場合
ベースラインより
収縮期血圧が 15 mmHg 以上、
拡張期血圧が 10 mmHg 以上、上昇した場合

治療目標

高血圧を合併している場合

RichHill Medical